

はじめる助成団体に対するフォローアップ調査結果(平成 30 年度)

I 平成 30 年度の助成金応募状況

地球環境基金助成メニューの一つであるはじめる助成は、「助成期間で得られた知識・経験を用いて、将来はひろげる助成の対象になること」を期待して実施しているものである。

平成 29 年度にはじめる助成を受けた 20 団体における、平成 30 年度応募状況は以下のとおりであった。

表 1 平成 29 年度はじめる助成団体における、平成 30 年度応募状況

平成 30 年度 応募状況	応募 団体数	うち採択 団体数	うち不採択 団体数	不採択団体の不採択理由(抜粋)
ひろげる 助成	4	2	2	・自治体等との連携の可能性が要望書からは読み取ることができない。 ・はじめる助成の活動内容にとどまっている。
つづける 助成	14	5	9	・ロジックモデルの整合性がとれていない。 ・はじめる助成の活動の成果・課題を踏まえた検討が十分になされていない。 ・つづける助成の目的に沿った活動とは言い難い。(継続性、持続性、発展性)
応募なし	2 (10%)			
合計	20	7 (35%)	11 (55%)	

平成 30 年度に採択された割合は 35%(7件)と、前回の調査(56%)から採択率は低下しているが、前々回の調査(40%)とは同程度であった。

また、ひろげる助成より、つづける助成に応募した団体の方が多かったこと(14 団体)は、つづける助成の目的や助成対象活動などが団体のニーズに合っていたからと考えられる。

次に、平成 29 年度にはじめる助成を受けた 20 団体のうち、平成 30 年度の助成団体として採択された 7 団体と、応募したが不採択となった 11 団体を除く 2 団体を対象として、助成を要望しなかった理由などをアンケート調査票で取りまとめた。

II 助成を要望しなかった団体について

1) 活動の継続実施の有無

「助成活動は、継続して実施していますか」という質問に対し、2 団体ともに「継続している」と回答した。(表2)

表2 活動の継続実施の有無

区 分	対象団体数 2 件	
	件 数	構成比
a. 継続している	2	100%
b. 継続していない	0	0%

2) 助成を受けて行った活動の志向について

地球環境基金の助成を受けて行った活動について、2 団体をもつ志向は、以下のとおりであった。(表3)

表3 助成を受けて行った活動の志向について

回 答 項 目	対象団体数 2 件	
	件 数	対象団体数 に対する率
a. 現在の活動規模を拡大	1	50.0%
b. 現在の活動規模を維持	1	50.0%

3) 助成終了後の現在の財源について

助成終了後の現在の主な財源は、以下のとおりであった。(表4)

表4 助成終了後の現在の主な財源について(複数回答可)

回 答 項 目	対象団体数 2 件	
	件 数	対象団体数 に対する率
a. 国の補助金	0	0.0%
b. 地球環境基金	0	0.0%
c. 民間財団等の助成金	1	50.0%
d. 支援金	0	0.0%
e. 会費	1	50.0%
f. 参加費	0	0.0%
g. その他※	1	50.0%

※「その他」の具体的な内容は「現地協力団体の事業収入」

4)平成 30 年度の助成を要望しなかった理由について

平成 30 年度の地球環境基金の助成を要望しなかった理由は、以下のとおりであった。(表5)

表5 平成 30 年度の助成を要望しなかった理由について(複数回答可)

回 答 項 目	対象団体数 2 件	
	件数	対象団体数 に対する率
a. 活動の目的を達成した。	0	0.0%
b. 団体の活動を休止または団体を解散した。	0	0.0%
c. 助成の申請手続き・精算が複雑すぎる。	2	100.0%
d. 助成を受けるための資格要件が乏しい。	0	0.0%
e 助成制度が要望に合わない。(助成金の使途制限等)	1	50.0%
f. その他	0	0.0%